

自然観察NOW

野幌森林公園自然情報

2010.2.14 No.8

北海道ボランティア・レンジャー協議会

冬芽・葉痕アラカルト

寒い冬の森での観察にはいろいろな観察ポイントがありますが、そのなかの一つに冬芽の観察があります。生物学的には「休眠芽」・「抵抗芽」とも呼ばれています。冬芽で、春になると葉や枝になるものを「葉芽」、花や花の房になるものを「花芽」、両方含んだものを「混芽」といいます。冬芽をルーペなどを使って詳しく調べると、厳しい冬を越すためのいろいろな工夫をしていることが分かります。芽鱗を持たない裸芽はさむそうに見えますが、よく観察すると白い産毛につつまれて、しっかりと芽を守っていることがわかります。

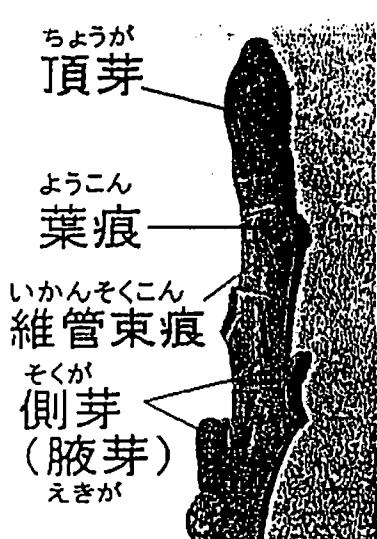
冬芽には次のタイプがあります。

- ・鱗芽…魚の鱗のような皮や毛で被われています。鱗芽の樹木は多く、冬芽は乾いた感じです。ミズナラ、ハルニレ、シナノキ、カエデ類は鱗芽です。
- ・裸芽…鱗芽を持たない芽です。伸びる前の小さな普通葉がそのまま芽を作っています。ヤマウルシ、ツタウルシ、オニグルミ、オオカメノキは裸芽です。
- ・隠芽…葉痕や樹皮の中に隠れて見えないタイプを隠芽といいます。ヌルデ、ニセアカシア、プラタナスがあります。

葉痕

葉が枝から落ちるのは、葉と枝の間に「離層」が形成されるからです。葉が落ちた後、葉がついていた所に、樹種によって独特の痕が残ります。これを葉痕といいます。

葉痕は、水分や養分が通る道管・師管が集まった維管束の痕が、斑点のように残ったものであり、樹木によっては葉痕が動物の顔に見えたりします。



枝の先端にできる冬芽は頂芽、その下にできる芽を側芽または腋芽(えきが)といいます。

一般に、側芽の成長は頂芽にくらべてはるかに悪い。この性質を頂芽優勢という。これは、頂芽でつくられたホルモンが側芽の成長を抑制しているからだと考えられている。

頂芽をとり除くと、成長の抑制がなくなり、側芽は急に成長するようになる。植物が上下左右バランスよく成長するための重要なしくみである。

(H P - 冬芽や葉痕の観察より引用)

冬芽の観察

大きな冬芽、小さな冬芽、黒光りの冬芽、赤みを帯びた冬芽、産毛をまとった冬芽等々一つ一つに特徴がありますので、冬芽のグループ分けするのも面白いです。

◆バッコヤナギ

バッコヤナギに限らず、日当たりのよい所にはえているヤナギ類は早くから花芽を観察できます。バッコヤナギの冬芽は赤銅色でつやのある一枚の芽鱗で保護されています。雪の残る早春にこの芽鱗をぬぎすて、白銀の花穂が現れてきます。

属名サリックス (*Salix*)は、ギリシャ語のヘリックス（旋回、渦巻き）からきてます。

◆エゾニワトコ

場所によっては、もう冬芽が緑がかってきました。春の芽出しが早く、春の気配をいち早く私たちに知らせてくれます。

葉芽は卵状楕円形、混芽（花と葉を含む）は卵形ですので、じっくり観察してその違いをみてみましょう。

◆ケヤマハンノキ

垂れ下がっているのは、雄花です。雌花は4mmほどで紅褐色です。また、昨年の秋に結実した果実もみられます。葉芽もしっかり観察できます。

園内にはハンノキ（ヤチハンノキ）もありますので、双方を観察しましょう。

◆ホウノキ

大きな冬芽（3～5cm）ですので、じっくり観察してみましょう。一般的に大きな芽からは大きな葉になります。枝先をみると、昨年結実した果実が残っていることがあります。ホオノキには花をさかせる枝と花を咲かせない枝があり、花をつけない枝は分枝させながらのびる一方、花をつける枝はあまり成長せず、そのうち陰になり数年後には枯死します。そして、今まで花をつけなかった枝が花をつけるようになり、枝を入れ替えながら繁殖と成長を繰り返します。

◆オオカメノキ

裸芽で対生です。葉芽は紡錘形で先がとがり、花芽は球形で、二つの違いがはっきりわかります。材はよくしなるので杖などに使われています。低木なので、目線で観察できます。

◆カエデの仲間

枝の先端の冬芽（頂芽）をみてみましょう。エゾイタヤ（イタヤカエデ）やベニイタヤとヤマモミジやハウチワカエデの違いを観察しましょう。また、エゾイタヤの枝分かれの部分が濡れていることがあります、それは樹液で春の訪れを告げています。

観察会の予定

・藻岩山登山観察会

平成22年2月21日（日）10:00~14:30 集合場所 慈恵会病院登山口

しっかりと踏み跡の道がついています。頂上から冬の札幌の街並みをみましょう。

・「森の中で春をさがそう」観察会

平成22年3月21日（日）10:00~12:30 集合場所 ふれあい交流館

春の気配が感じられる森です。野鳥の鳴き声も春を告げています。